

震災とミュージアム—そのとき私たちは何ができるのか

日時：2013年4月21日(日) 10:30~16:45(10:00 受付開始)

会場：仙台市博物館ホール

主催：美術史学会 仙台市博物館

後援：全国美術館会議 日本アートマネジメント学会 文化資源学会

定員：200名(美術史学会員以外の参加も可、参加無料、事前申込不要、先着順)

問合せ：学習院大学文学部哲学科事務室 TEL(03)5992-1094

開催趣旨

東日本大震災によって、文化財とそれを保有・保管する施設の受けた被害が未曾有の規模だったことは繰り返すまでもありません。被災地域の広大さと被災のタイプの多さ、特に巨大な津波による施設の損壊と、塩水に多種かつ大量の文化財が浸かるという状況は、経験したことのないものでした。この極めて困難な状況のなか、震災直後から始まった文化財救出の活動も、広汎かつ多彩なものとなりました。一方で復興支援のため、被災した美術館・博物館は精力的に再開し、展覧会などの美術関係イベントが各地で開催されました。

美術史に関わる者として、この過程で「何があったのか」を確認し、浮び上がった問題点を共有しながら、「何ができるのか」を考えてゆく必要があることは言うまでもありません。その一環として、仙台市博物館において、同館で催される復興支援の特別展「若冲が来てくれました プライスコレクション江戸絵画の美と生命」にあわせて、シンポジウムを開催致します。文化財レスキューと美術関係の復興支援事業はどのように行われたか、また、将来の広域災害対応についてはどのような動きがあるのか、についての報告を得て情報を共有し、今後の議論に繋げたいと思います。

プログラム

- 総合司会：泉武夫（東北大学）
- 10:30 開会挨拶 鈴木廣之（美術史学会代表委員・東京学芸大学）
- 10:40 主旨説明 島尾新（学習院大学）
- 10:45 基調報告「被災文化財レスキュー事業の成果と課題—救援委員会事務局を担当して—」
岡田健（東京文化財研究所）
- 11:10 報告1「民家からレスキューされた美術品」
平川新（東北大学）
- 11:35 報告2「東日本大震災と仙台市博物館」
内山淳一（仙台市博物館）
- 12:00 《昼休み》
- 13:00 報告3「宮城県美術館における被災と対応」
有川幾夫（宮城県美術館）
- 13:25 報告4「救援から支援へ：全国美術館会議の活動」
村上博哉（西洋美術館）
- 13:50 報告5「山梨県の博物館ネットワークと災害対策」
中山誠二（山梨県立博物館）
- 14:15 《休憩》
- 14:25 コメント ジョー・プライス、エツコ・プライス
『若冲が来てくれました』からのメッセージ
- 14:45 総合討議（司会：島尾新）
- 15:45 特別展「若冲が来てくれました プライスコレクション江戸絵画の美と生命」見学
- 16:45 終了

岡田 健 (おかだ けん)

【発表題目】「被災文化財レスキュー事業の成果と課題—救援委員会事務局を担当して—」

【報告内容】2011年4月20日、私は宮城県教委、石巻市教委、東北歴史博物館、奈文研、東文研、文化庁の総勢12人のメンバーの一人として、瓦礫に埋もれた石巻文化センターに入りました。これが「文化財レスキュー事業」における最初の出動でした。以来2年間、救援委員会事務局を担当してきました。被災した当事者でない私たちに何が分かり、何ができるのか、このことを考えない日はありませんでした。今なお多くの課題を抱える被災地の現状も含め、今回のレスキュー事業について、お話ししたいと思います。

【プロフィール】東京文化財研究所保存修復科学センター長。1956年生まれ。奈良国立博物館学芸員、東京国立文化財研究所美術部研究員、東京文化財研究所文化遺産国際協力センター室長などを経て、2012年から現職。2013年3月まで東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局長を担当。専門は文化財学。

平川 新 (ひらかわ あらた)

【発表題目】「民家からレスキューされた美術品」

【報告内容】在仙の歴史研究者は、2003年の宮城県北部地震直後にNPO法人宮城歴史資料保全ネットワークを設立して、歴史資料を災害から守る活動を続けてきた。2011年の東日本大震災でも被災地に入って文化財のレスキュー活動を展開した。津波に巻き込まれて消滅した旧家も少なくないが、2013年1月段階で約5万点の歴史資料を救済した。そのなかには古文書だけではなく、軸装や額装された絵画類などもある。なかには存在すら知られていなかった一級品もあった。試行錯誤を続けながら個人が所有する美術品もレスキューしてきたが、私たちの経験を美術史学会の方々と共有していただくことは、今後の災害対応という点からも大切なことだと思う。

【プロフィール】東北大学災害科学国際研究所所長・教授。1950年福岡生まれ。東北大学大学院文学研究科修士課程修了。専門は江戸時代史・歴史資料保存学。主な論著に『開国への道』『紛争と世論』ほか多数。文部科学省文化審議会専門委員、仙台市史編纂専門委員長、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事長ほか、多くの委員を務める。2007年度から東北大学防災科学研究拠点代表を務め、2012年、東北大学災害科学国際研究所初代所長に就任した。

内山淳一 (うちやま じゅんいち)

【発表題目】「東日本大震災と仙台市博物館」

【報告内容】「想定外」という言葉で語られることの多かった東日本大震災。天災は防ぎようがありませんが、その被害は低減することが可能です。ましてその後の二次災害なら、なおさらでしょう。今回の災害は、こんな当たり前のことに改めて気づかせてくれました。そこで、そのとき博物館という現場では何が起こったのか、そしてその後の対応はどうだったのか、事前に何をしておくべきだったのか、について検証してみたいと思います。また、被災地で多くのボランティアが活躍したように、博物館施設にも多くの支援の手が差し伸べられました。仙台市博物館での事例を、感謝の気持ちを込めてご報告させていただきます。

【プロフィール】1959年、群馬県生まれ。東北大学大学院文学研究科修士課程修了。同大文学部東洋日本美術史研究室助手を経て、仙台市博物館学芸員として勤務。現在は同館主幹兼学芸室長。専門は近世日本絵画史。巡回・自主企画ともども多くの展覧会を手がけてきた。

有川幾夫 (ありかわ いくお)

【発表題目】「宮城県美術館における被災と対応」

【報告内容】東北地方太平洋沖地震によって宮城県美術館には人的被害は発生しなかったが、展示ケースのガラスに破砕が生じた。また展示作品の一部に被害があった。地震発生時およびその直後の対応と、被害復旧の経過について報告する。

【プロフィール】1951年生まれ。1978年、東北大学文学研究科修士課程修了。同年、名古屋市博物館勤務。1980年、宮城県美術館建設準備室勤務。1981年、宮城県美術館勤務。2009年、宮城県美術館副館長。現在に至る。

村上博哉 (むらかみ ひろや)

【発表題目】「救援から支援へ： 全国美術館会議の活動」

【プロフィール】国立西洋美術館学芸課長。愛知県美術館学芸員を経て、2006年より現職。専門は西洋近代美術史。2007年より全国美術館会議の事務局企画担当幹事を務める。

【報告内容】国内約360館の国公立美術館が加盟する全国美術館会議は、1995年の阪神淡路大震災の際に被災地で文化財の救出活動を行って以来、大災害時における美術館の相互協力体制を築いている。東日本大震災に対しては、被災文化財等救援委員会の構成団体として宮城県および岩手県での文化財レスキュー事業に参加するとともに、新たに「復興対策委員会」を設け、被災作品・資料の修復・公開や、被災地域の美術館へのさまざまな支援事業を行っている。今回の発表では、全国美術館会議による救援・支援活動の概要について報告する。

中山誠二 (なかやま せいじ)

【発表題目】「山梨県の博物館ネットワークと災害対策」

【報告内容】山梨県では2007年の山梨県立博物館の設立を契機に、県内の博物館・美術館施設が一堂に集まり、「ミュージアム甲斐ネットワーク」の名称のもとに連携事業を行っている。そこでは、ネットワーク会議、共同研修会、「夏休み自由研究プロジェクト」などのイベント開催の他、一昨年から公式ホームページ「ミュージアム甲斐ネット」を立ち上げ、県内博物館・美術館全体の広報・PRに努めている。東日本大震災を踏まえ、災害時における既存のネットワークを活かした文化財救済の必要性が強く認識され、現在その体制整備のための準備を進めている。

【プロフィール】山梨県立博物館学芸課長。山梨県立考古博物館学芸員、埋蔵文化財センター文化財主事、山梨県教育委員会博物館建設室主幹を経て2007年から現職。専門分野は考古学。

ジョー・プライス エツコ・プライス

【「若沖が来てくれました」からのメッセージ】今回の東日本大震災復興支援展覧会は、多難と苦悩を乗り越えようとしている人々に、美しく楽しい伝統的な日本の技を見て頂きたい、そして子供達にも楽しい思い出を欲しいとの思いで、多くの人々のサポートで実現した展覧会です。出来るかぎり多くの人々に支援して頂き、復興の一部になれば、又、亡くなられました多くの人々、動物達の供養になれば、これ以上の喜びはありません。